

47歳元社長・射場さん 挫折経て司法試験合格



「社会経験、役立てたい」

松山市出身の射場さんは、愛媛大教育学部を卒業し、27歳のとき、広島市で中小企業向けITコンサル会社を起業。「若社長」として仕事一筋だった。41歳。仕事のしすぎて背中の神経を痛め、歩行困難となつた。医者は「即日入院して手術だ」。張り詰めていた仕事への緊張感もブツリと切れた。「もう突っ走れない」と会社をやめた。手術後、リハビリのため松山市に戻った。

体は回復したが、仕事を求めてハローワークへ行つても40代女性の働き口はほとんどない。女性の働き口はほとんどない。「この先どうやって生きよう」。初めての挫折にふさぎ込んだ。

転機は、ふと訪れた女性の悩み相談会で、新司法試験について知つたことだ。昨年は不合格。2回目の挑戦で合格した。合格者一覧表にある自分の受験番号を見て「何かの間違いじゃないか」と戸惑つた。

新司法試験は、司法制度改革に伴い、2006年に始まった。幅広い分野の人材を集めていた。京産大の法科大学院では、法科大学院の修了生を対象とした新司法試験が始まつた2006年以降、22人の合格者を出している。受講者は40、50代も少なくないという。

射場さんは「社会人や子育てを経験した40歳超の女性だからこそ世の中に果たせる役割があると思う」。50歳まであと3年。「天命」を求め、弁護士を目指す。

(村上亮二)

不惑から弁護士の道

今月11日に合格発表があつた司法試験で元ITコンサルタント会社経営の射場和子さん(47)が難関を突破した。全体の合格率25・1%。合格者の平均年齢28・54歳。狭き門への挑戦は、「不惑」を過ぎて経験した挫折から必死にはい上がつた結果だつた。

松山市出身の射場さんは、愛媛大の実家に戻つた。

「本気でやれば人生を変えられるはず」。化粧や髪形、テレビにお酒……。身なりは気にせず娯楽も断ち切り、机にかじりついた。成績優秀者への授業料免除も勝ち取つた。貯金はなく、奨学金でなんとか暮らす身にはありがたかった。

法律家を増やそうという狙いがある。大学で法律以外を学んだ人でも法科大学院を修了すれば受験できる。射場さんは、社会人の合格実績が強みの京都産業大の法科大学院に入学した。43歳だった。

「本気でやれば人生を変えられるはず」。化粧や髪形、テレビにお酒……。身なりは気にせず娯楽も断ち切り、机にかじりついた。成績優秀者への授業料免除も勝ち取つた。貯金はなく、奨学金でなんとか暮らす身にはありがたかった。